

島本町文化財調査報告書

第 13 集

広瀬遺跡調査概要報告

平成 21 年 5 月

島本町教育委員会

序 文

島本町では、先人たちが大切に遺してきた数多くの文化財の存在が周知されています。これらの文化財を守り、後世に正しく伝えることは、現代を生きる我々の責務であります。教育委員会では、包蔵地の周知と保護を行うとともに、未だ遺跡の確認されていない地域での調査も実施し、新たな埋蔵文化財の発見に努めております。

ここに刊行いたします報告書は、平成20年度に実施した広瀬遺跡での宅地開発に伴う緊急発掘調査の成果を報告するものであります。調査にあたりましては、多大なご指導ご協力を賜りました関係諸機関の皆様、また発掘調査にご理解ご協力いただきました土地所有者の方々や、近隣の皆様方には紙面をおかりして、深く感謝し御礼申し上げますとともに、本町の今後の文化財保護行政に対し、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年 5 月

島 本 町 教 育 委 員 会
教 育 長 森 川 正 啓

例 言

凡 例

1. 本書は、平成20年度宅地開発に伴う緊急発掘調査として、大阪府教育委員会事務局文化財保護課の指導のもと、島本町教育委員会が実施した広瀬遺跡調査概要報告書である。
2. 調査は、島本町教育委員会事務局生涯学習課嘱託職員久保直子を担当者とし平成20年12月4日に着手し、島本町立歴史文化資料館整理室で引き続き整理調査ならびに報告書作成業務を実施し、平成21年5月29日に本書の刊行を以って完了した。
3. 調査及び整理作業にあたっては、下記の調査員及び調査補助員の参加を得た。(順不同)
【調 査 員】 坂根 瞬
【調査補助員】 上野政彦 吉村光子
4. 本書の執筆は久保が行い、作成・編集は久保、坂根、吉村が行なった。
5. 本調査に関わる資料の保管と活用ならびに本調査によって作成された資料などの管理は島本町教育委員会がこれにあたる。
6. 現地作業及び整理作業においては、関係機関並びに、貴重なご指導ご教示を賜った方々にここに感謝の意を表します。

1. 本書に用いた標高は、東京湾平均海水面(T.P.)を基準とした数値である。方位は、国土地標第VI系における座標北である。
2. 土層断面図の土色は、小山正忠・竹原秀夫編『新版標準土色帖』第12版を使用した。

挿 図

- | | | |
|-----|---------------|---------------|
| 第1図 | 調査地位置図 | (1/2,500) |
| 第2図 | 南トレンチ土器出土状況 | (1/20) |
| 第3図 | 南トレンチS D01平面図 | (1/20) |
| 第4図 | 調査地平面図・断面図 | (1/250・1/200) |
| 第5図 | 北トレンチ平面図・断面図 | (1/50) |
| 第6図 | 出土遺物実測図 | (1/2・1/4・1/6) |

図 版

- | | |
|-----|-------------------|
| 図版1 | 南トレンチS D01完掘(東から) |
| 図版2 | 北トレンチ遺構面全景(北から) |
| 図版3 | 出土遺物 |

第1章 調査の概要

本調査事業は、平成20年度に行なった民間企業による宅地開発に伴う緊急発掘調査である。今回調査の対象となった広瀬一丁目は島本町内で周知される埋蔵文化財包蔵地の広瀬遺跡内にあり、近年開発の進む中で比較的広い範囲で田地が残されている地域である。また、調査地の東側では平成元年に島本町で初めて行なった発掘調査（町立第一小学校の施設整備事業に伴う発掘調査）で水無瀬荘園跡に関係する倉庫建物跡が検出されており、それに関連する遺構の検出が期待された。

第2章 広瀬遺跡発掘調査

調査期間：平成20年12月4日（木）から

平成21年3月3日（火）まで

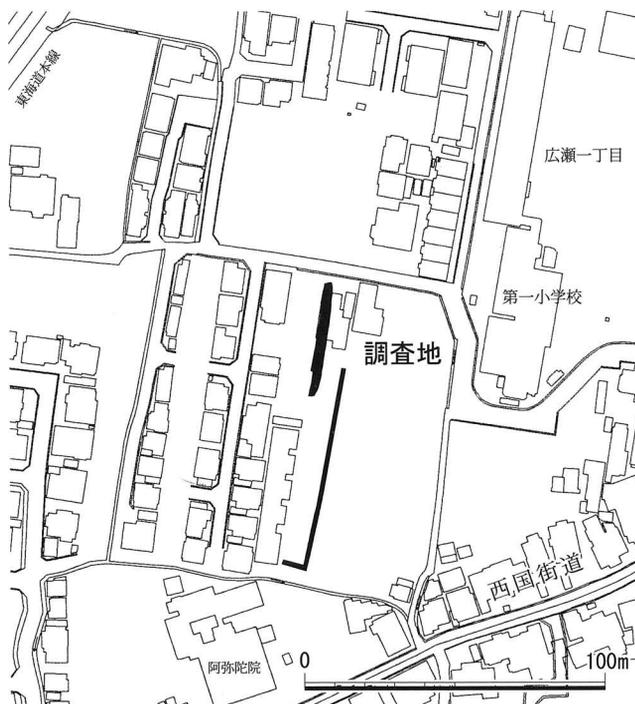
調査地：大阪府三島郡島本町広瀬一丁目

822-1 他

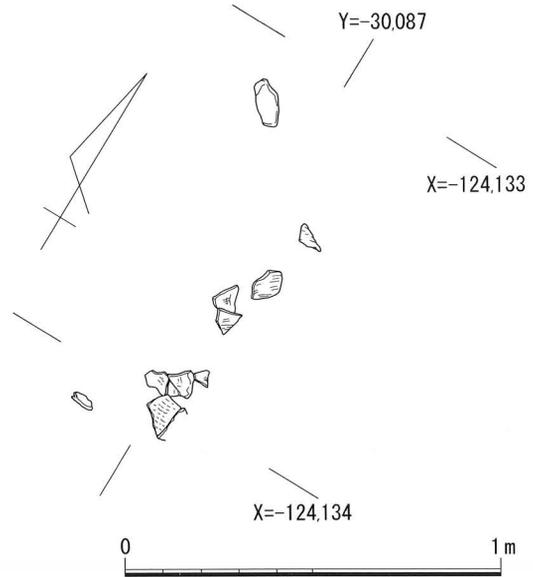
調査面積：約240m²

今回の調査地は南側を駐車場、北側は道路部分を含む宅地造成地になる計画であった。工事の関係上、調査は時期を3回に分けて行なった。

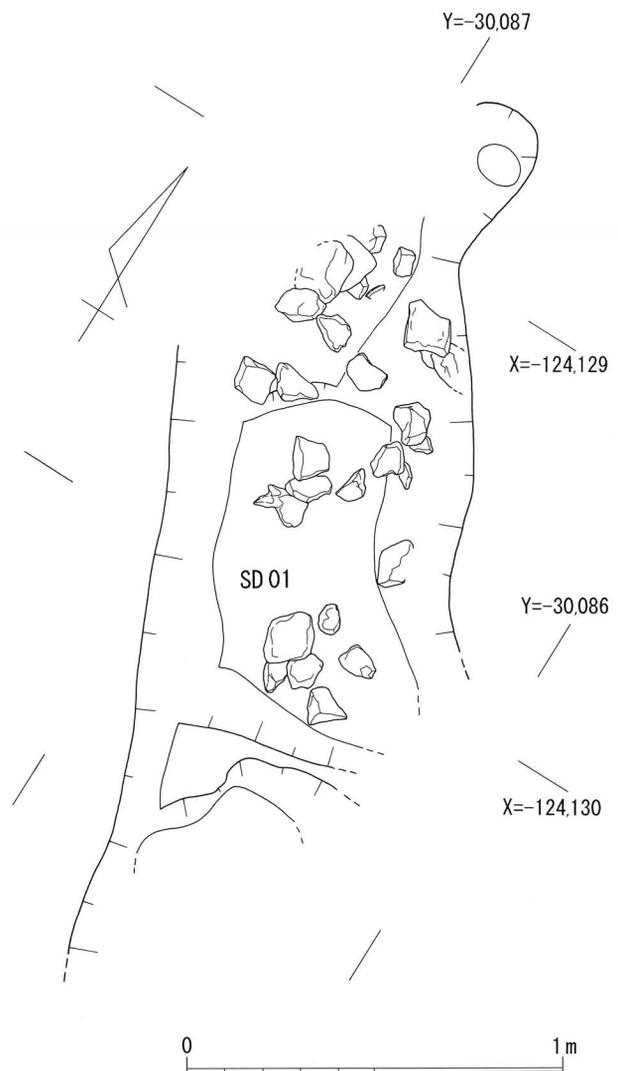
1回目は南トレンチの南半部で、隣接する水田との境界に施す擁壁部分（1×10m・2×40m）



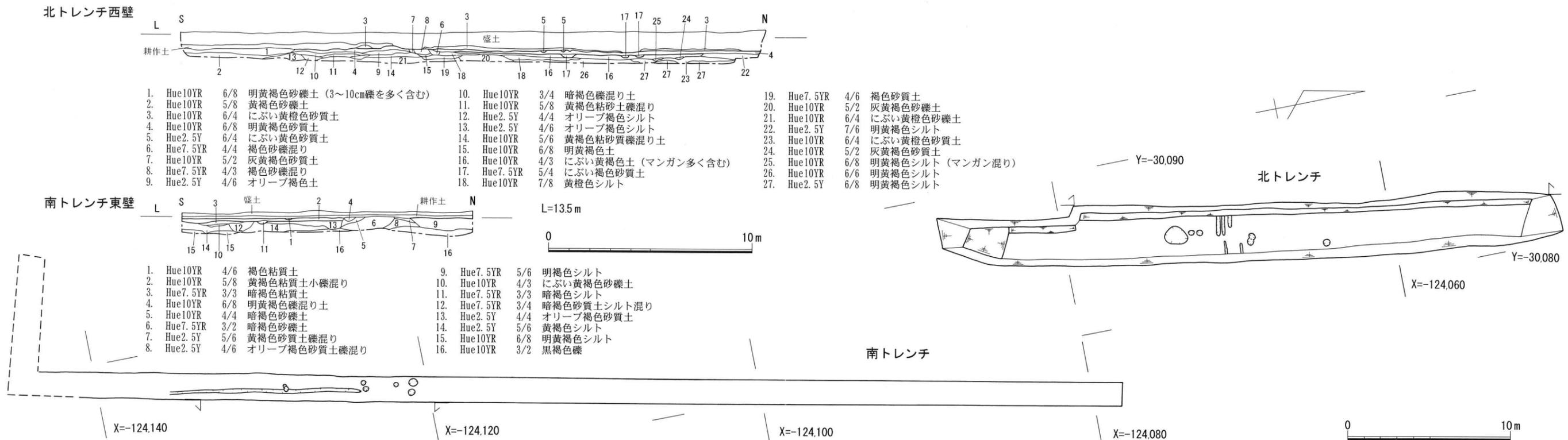
第1図 調査地位置図（1/2,500）



第2図 南トレンチ土器出土状況（1/20）



第3図 南トレンチS D 01平面図（1/20）



第4図 調査地平面図・断面図 (1/250・1/200)

の調査を行なった。工期が迫っていたため、比較的遺構面が残っている部分についてだけ図面を作成し、その他の部分については、機械掘削時の遺物取り上げと断面写真撮影だけを行なった。2回目は残りの北半部で(2×18m)、この場所では機械掘削時の遺物の取り上げと断面の写真撮影のみとなった。3回目は、北トレンチの道路予定部分での本調査を行なった。



図版1 南トレンチS D01完掘(東から)

1. 南トレンチ 検出遺構

トレンチの南側で近世～中世(第I遺構面)、中世～古代(第II遺構面)の遺構面を検出した。また、断面では両肩を持つ堀状の溝を確認している。明確な遺構としては溝を一本検出しているが、他に2回目の調査期間の中では焼土の中に弥生時代の土器が出土した面を確認している。

S D01 (第3図、図版1)

第II遺構面で検出され、幅約0.8m、最大深約1.0mの南西に走る溝である。溝には石が敷かれており、建物に伴う溝か、何らかの施設に関する溝かは不明である。

出土土器から平安～鎌倉時代に作られた溝ではないかと考えられる。掘り下げると、丸瓦や大型の砥石、瓦器碗、須恵器の破片などが多数出土した。又この溝のやや南上面では須恵器片が多く出土している(第2図)



図版2 北トレンチ遺構面全景(北から)

2. 北トレンチ 検出遺構

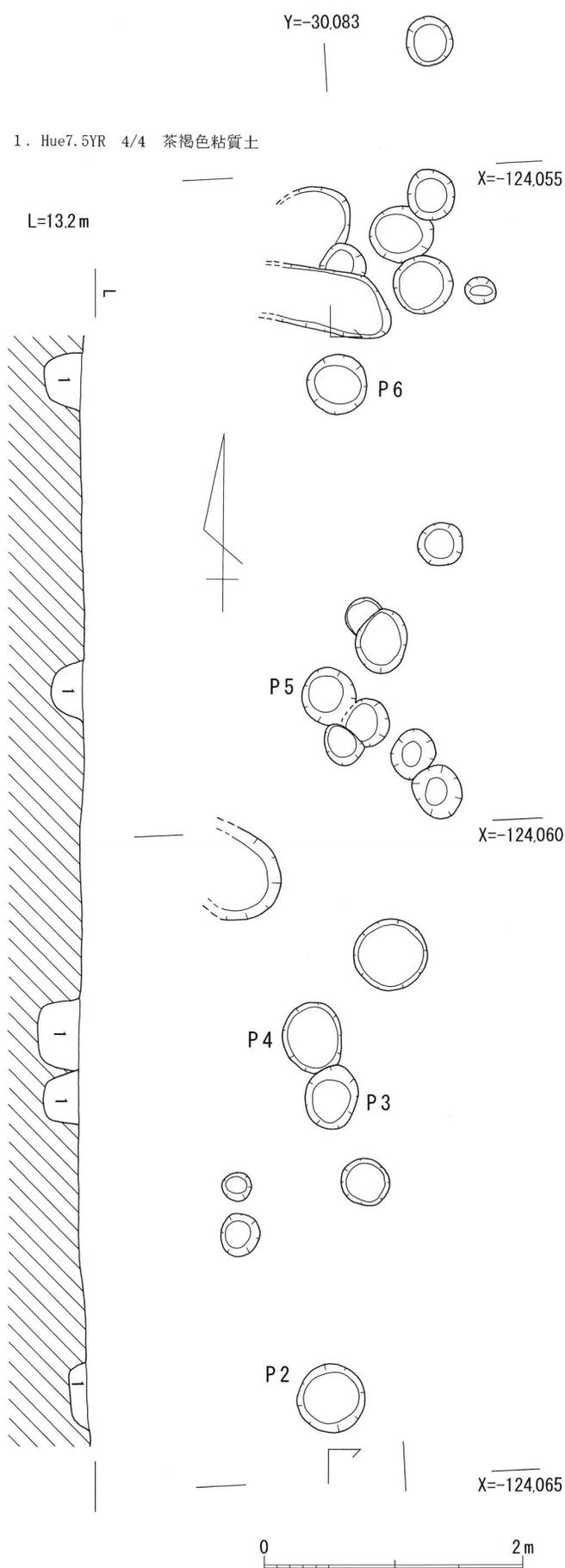
中世(第I遺構面)、中世～古代(第II遺構面)の遺構面を検出し、多数の柱穴群と土抗が検出された。また、トレンチ南側には自然流路の堆積がみられた。

柱列(P2・P3・P4・P6)(第5図、図版2)鎌倉時代のものと考えられる柱間寸法約2.1mの南北に続く柱列である。調査地が狭小のため東西方向への柱列は検出できなかった。

出土遺物(第6図、図版3)

今回の調査では、古代から近世期にいたる様々な時代の土器が出土した。以下に詳細を述べる。

1は弥生土器の壺の頸部で、櫛描直線文と波状文を施す。2は1と同一固体と思われる底の部分である。時期はII様式と考えられるが破片のため断定はできない。3は飛鳥時代の片口の鉢で、外面に細かいハケメ調整を施し、口縁部はナデを行う。4は古墳時代の高杯の杯部で明赤褐色を呈し、外面にハケメを施している。5は甗の羽口である。



第5図 北トレンチ平面図・断面図 (1/50)

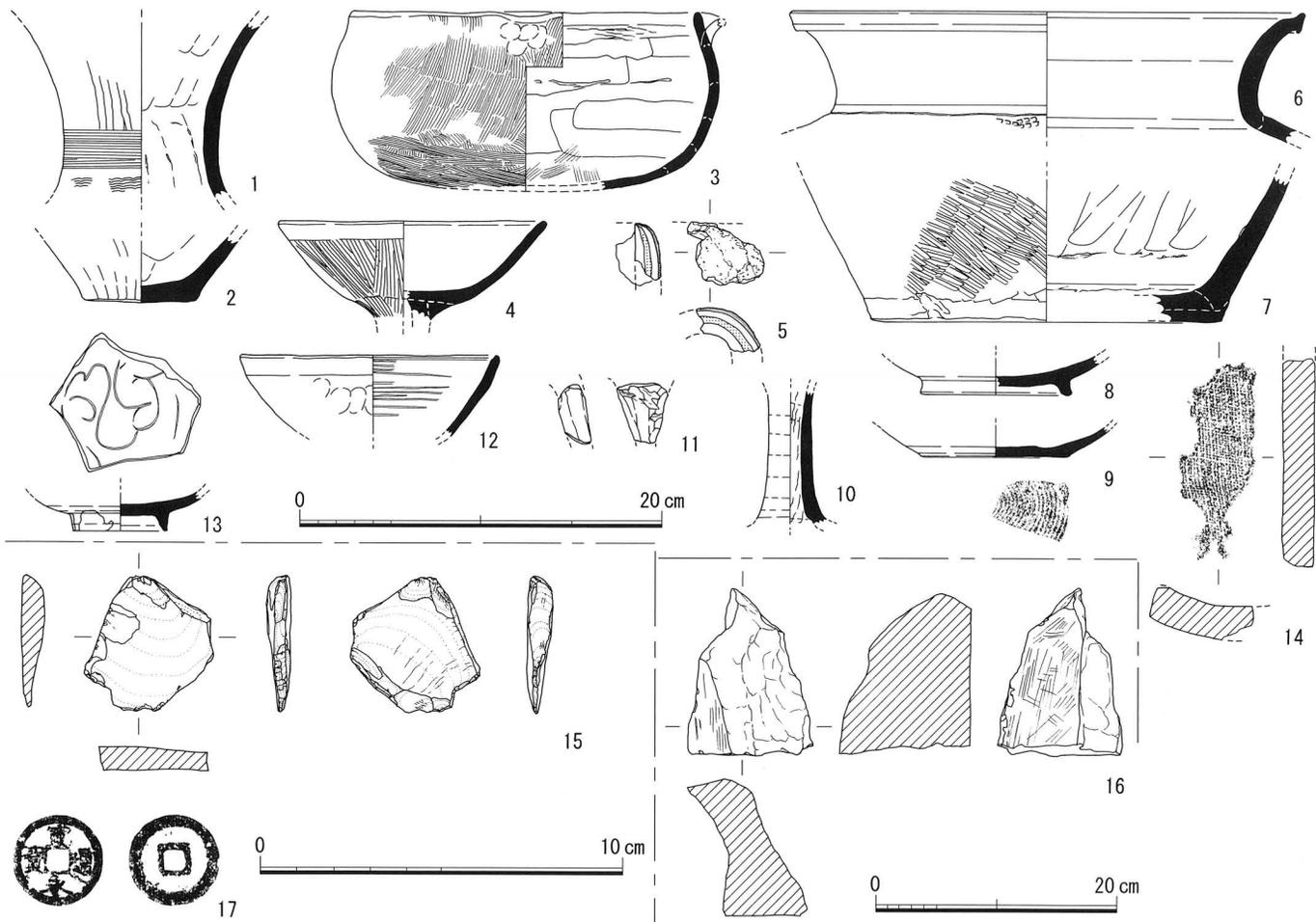
6・7は須恵器の甕で、6は破片のため時代の限定が難しい。7は平底で表面にタタキメを施している。平安時代ではないかと考えられる。8・9は須恵器杯あるいは皿の底部片で8はケズリ出し高台である。見込み部分にはヘラミガキを行う。9は高台部分に糸きり痕を呈する。10は浄瓶壺と思われる頸部で表面には濃緑色の釉がかかる。11は土馬の脚部の破片と思われ、町内で土馬が出土するのは珍しい。12は瓦器碗の口縁部で摩滅が激しいが、端部には沈線を残す。内面は暗文を施し、外面はユビオサエを行う。13は白磁の碗か皿の底部で見込みの部分に文様を施す。14は丸瓦で布目を呈する。15はサヌカイトの剥片、16は砥石で割れているが、原型は比較的大型のものと思われる。17は銭貨で寛永通宝である。

その他、小片で実測出来なかったが緑釉土器が出土している。

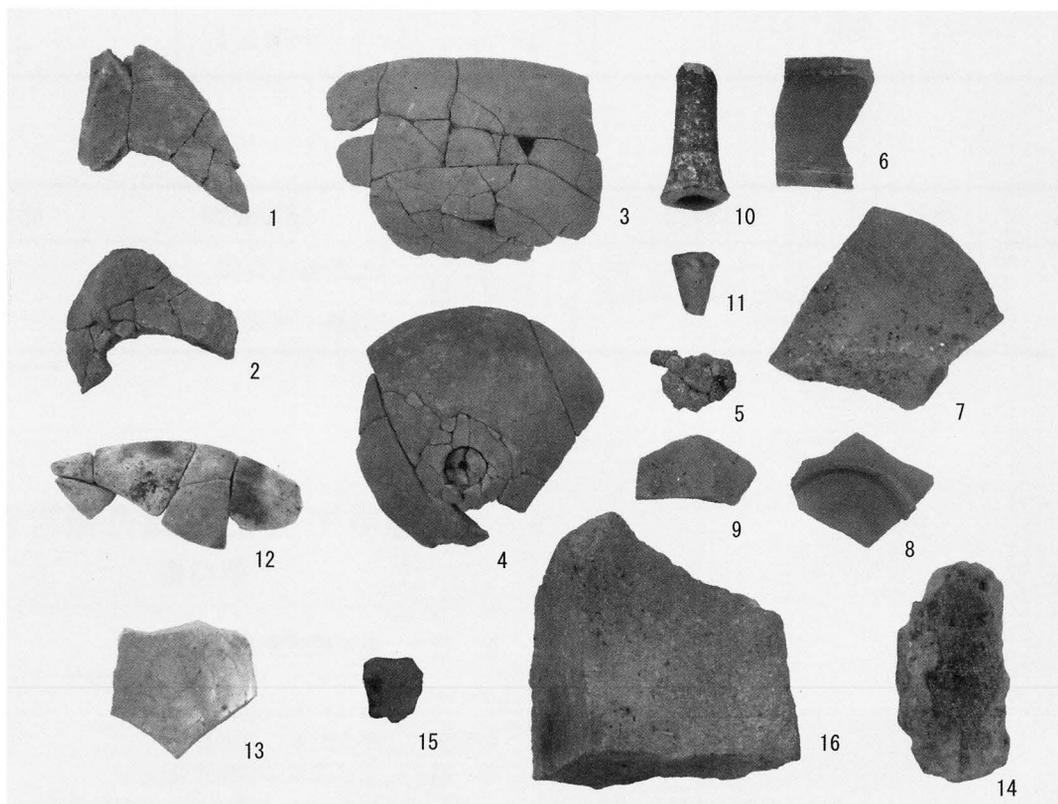
第3章 まとめ

今回の調査の大きな成果は、広瀬遺跡での弥生、古墳時代の土器が出土したことである。残念ながら遺構面の検出は出来なかったが、広瀬遺跡は従来奈良時代以降の集落遺跡として周知されてきたが、今回出土した土器を見ると比較的残りの良いことから、この地で弥生時代の早い時期から人々の生活が営まれたのではないかと考えられる。また、今回の調査地は水田耕作土を取り除くと、すぐ下層から遺構が検出されており、近年に至るまで土地使用に大きな改変はなく、近くに水無瀬川、淀川があることから川の氾濫が何度も繰り返され、土器が混ぜ合わされた所もあるが、古い時代の遺構が削平されずに残っていたと考えられる。

調査地の東側では、水無瀬荘民達の生活の営みがあったことが分かっており、またその東側には水無瀬神宮がある。このような背景の中、この地には水無瀬離宮跡の痕跡の存在も考えられることから様々な遺跡の性格の可能性はあることは確かである。



第6図 出土遺物実測図 (1/2・1/4・1/6)



図版3 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しまもとちょうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	島本町文化財調査報告書
副書名	広瀬遺跡調査概要報告
巻次	
シリーズ名	島本町文化財調査報告書
シリーズ番号	第13集
編著者名	久保直子、坂根 瞬、上野政彦、吉村光子
編集機関	島本町教育委員会事務局 生涯学習課
所在地	〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号 TEL. 075-961-5151
発行年月日	平成21年5月29日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
遺跡範囲								
ひろせいせき 広瀬遺跡	しまもとちょうひろせ 島本町広瀬 一丁目822-1 他	27301	14	34° 53' 8"	135° 40' 41"	2008. 12. 4 } 2009. 3. 3	240	宅地開発に伴う緊急遺跡範囲確認調査

所収遺跡名	集落	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
広瀬遺跡	集落	奈良時代～江戸時代	柱穴・溝	土師器・瓦器 羽釜・平瓦・石器	なし

島本町文化財調査報告書 第13集

発行 島本町教育委員会
〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号
TEL 075-961-5151
発行日 平成21年5月29日
印刷 三星商事印刷株式会社
〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300
TEL 075-256-0961